



金融教育の現場レポート



横浜国立大学教育学部
附属横浜中学校

池岡有紀教諭

生活に必要な金銭の流れを理解し、消費行動を見直そう

目に見えないお金が見えてくる！

「金融教育」は、社会のなかで生きる力を育むことを目的として行われます。このコーナーでは、教育の現場で金融教育に携わる先生や授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、金融広報中央委員会が発行した「中学生用金融教育教材 技術・家庭科（家庭分野）」の執筆に携わった、横浜国立大学教育学部附属横浜中学校の池岡有紀先生に、この教材を使用した授業実践について伺いました。

新学習指導要領に加わった「計画的な金銭管理」

子どもたちが学校で学ぶ内容は、学習指導要領で定められています。2017年3月、2012年度から実施された現行の小・中学校学習指導要領に代わるものとして、新しい学習指導要領が公示されました。これにより、子どもたちの学習内容が変わります^(注)。

(注) 中学校については、新しい学習指導要領に基づいた学習が2018年度から先行実施され、2021年度から全面实施されます。

中学校の技術・家庭科(家庭分野)についても、金融教育の観点から大きな変更が含まれています。「消費生活・環境」の内容として「金銭の管理」が新たに加わり、「計画的な金銭管理の必要性について理解すること」が身に付けるべき知識や技能とされています。

「これまでも、例えばスニーカーといった一つの商品を購入するときに、それが何か否かを考え、情報を集めて幾つかの種類を比較検討して選ぶということは学んできました。新しい学習指導要領では、これは買わなければならない、あれも欲しい、でも使えるお金は限られているというなかで、収支のバランスを図り、見通しを立てながらどうやってお金を使うかを学ぶことが加わりました」と池岡先生は説明します。

「計画的な金銭管理」を「対話的でより深い学び」を通して学ぶ教材を作成

今回加わった「計画的な金銭管理の必要性」は、まさに金融教育の中心的内容(金融教育プログラム全面改訂版26～27頁参照)で、以前から金融教育に関心の高い先生方が取り組んできました。もともと、新しい学習指導要領のもとで中学校での指導方法が確立されるのはこれからのこと。そこで、金融広報中央委員会では全国の中学校の授業をサポートしようと、新しい教材を作成することになりました。同委員会の「学校における金融教育推進のための教材研究会」での検討結果を踏まえて、堀内かおる先生(横浜国立大学教育学部教授)とともに池岡先生が執筆したのが、「生活に必要な金銭の流れを理解し、消費行動を見直そう——『見えないお金』が見えてくる!——」とその指導書です。

生徒たちの「消費者川柳」傑作集

生徒たちが、ワークシート8で「消費者としての自分の課題を川柳で表現」した作品の一例です。(編集部セレクト)

大変だ 気づけば消えてる 親の金

クレジット 本当にその金 払えるの

考えて その情報つて 本物か

安すぎる 価格の裏側 考えて

金欠の 大きな理由は 衝動買い

無駄使い バブルじゃないぞ 今の世は

貯金する 今はキツイが のちのため

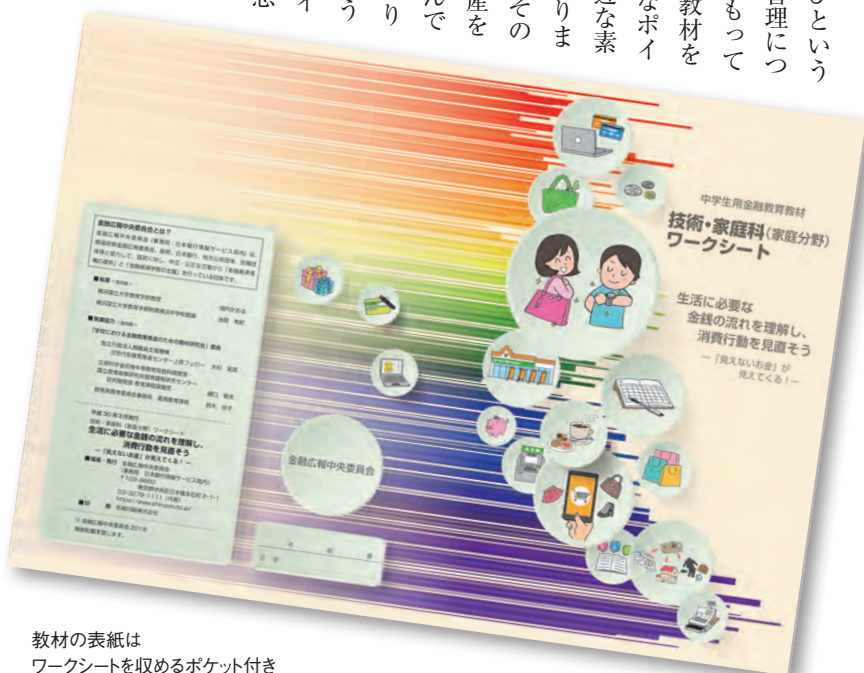
だまされた いつまでたっても もの来ない

意識して 未来につなぐは 消費者 わたしたち

この教材は、ワークシート1からワークシート8までの、8枚のシートで構成。8時間の授業計画で、「消費生活・環境」の内容で学ぶ「金銭の管理と購入」「消費者の権利と責任」の内容をすべてカバーできるように作られています。池岡先生によれば「新しく学習指導要領に加わった部分に特化した教材にすることも考えましたが、一つの教材を使って学習の流れができた方がよいだろうと、こうした形にしました」とのこと。では、その流れとは一体どのようなのでしょうか。池岡先生は次のように説明します。

の最後には『成人になったときにどのような消費者になっていきたいか』を考えられるようになることを目標にしています。成人になると現金だけでなくクレジットカードを使うようになりますから、その仕組みを理解して、クレジットカードを利用するうえでどういうことに気を付ける必要があるかを考えます。さらにクレジットカードに関する学習で契約について学んだことを踏まえて、消費者被害にあわないうためにどうするかということも考えていきます。

「対話的でより深い学びという点から、中学生に金銭管理についてどうリアリティをもって考えさせるかが、この教材を作成するうえでの大きなポイントになりました。身近な素材としてお小遣いがありますが、すでに小学校ではその範囲で修学旅行のお土産を買うといったことを学んでいます。一方、いきなり一人暮らしをするという設定は中学生にとってイメージが湧きにくいと思います。そこで、今の生活でどのようなことにお金が使われているのかを考えることからスタートし、この学習



教材の表紙は
ワークシートを取めるポケット付き

学習の流れを意識したワークシート

それでは、具体的に各ワークシートの内容をみていきましょう。

ワークシート 1

現在の日常生活のなかで、どのようなことにお金が使われているかを書き出し、さらに書き出したことについて、生活に必要なことと娯楽的なことに分けてみます。

◆池岡先生から一言◆

中学生の日常生活のなかでもいろいろなことにお金が使われていますが、その多くは保護者が支払っています。自分が必ずしも認識していない「見えない」お金の流れというものが、日々の生活にあるのだということに気付かせることを学習のスタートにしています。また、限りある予算のなかで、本当に必要なものは何かを考える、優先順位を付けることが重要です。自分の生活にかかわるお金の使い方を認識してもらうとともに、これを必要なことと娯楽的なことに分けてみるということもワークとして取り入れています。


ワークシート 2

生まれたときからこれまでを振り返り、さらに成人するまでを見通して、「今までこんなにお金をかけてもらっていた」「これから成人するまでにいくらお金がかかる」ということを計算したうえで、成人した自分をイメージします。さらに、成人になったときに持っていたいものを考え、それが、なぜ欲しいのか、どのように使いたいのかをグループで話し合います。

◆池岡先生から一言◆

ワークシート2の計算は、自分で手を動かさないと実感が湧かないので、ある程度は自分で計算してもらう必要がありますが、すべてを生徒にやってもらうと時間が掛かります。

このワークの目



ワークシート 3

的は成人した自分をイメージすることなので、時間不足にならないように、計算もある程度は教員が用意した方がよいでしょう。また、欲しいものを手に入れるためには、計画的な金銭管理が必要だということに気付かせたいので、成人したときを持っているものとして多少高価なものをもイメージさせる必要があります。

ワークシート 4

◆池岡先生から一言◆

生徒にとって、成人したときの生活をイメージすることは難しいです。イメージを持たせるために、家庭の話を聞いてくることも考えられますが、グループ学習を行うことを考えると、生徒のプライバシーに配慮しなければなりません。私は、自分が成人したときのことをいろいろと話して聞かせます。自宅から大学に通っていて、どんなアルバイトをしていて、そこで幾らもらっていたとか、この頃、どんなものが欲しかったなど。ほかの教員からも話を聞いておいて、授業で紹介したりもします。

分のニーズとウォンツに合っているかを考えます。限りある予算から購入する必要があることを理解するための参考となるよう、資料として「大学生の生活費（1ヵ月）」を

の仕組みを理解します。

「契約」とは何かを理解し、商品やサービスの販売方法、代金の支払方法について種類とそれぞれの特徴を考えます。そのうえで、クレジットカードについて三者間契約の仕組みを理解します。

◆池岡先生から一言◆

生徒には、何を買って何を買わないかということだけではなく、何かを買う場合にも、お店に行って買うのか、インターネットで買うのか、また、現金で支払うのか、クレジットカードを利用するのかという選択があることを理解してもらいます。そのうえで、インターネットで買う場合やクレジットカードを利用する場合に、どのようなことに注意する必要があるかについて考えてもらいます。



ワークシート 5

具体的な事例をもとに、消費者被害にあわないために留意することを考えます。そのうえで、消費者の権利と責任について考えます。

◆ 池岡先生から一言 ◆

近年、悪質商法が増え、中学生も多く被害にあっています。消費者被害にあわないためにはどうしたらよいのか、もし被害にあってしまったときにどのような対応をしたらよいのか、について考えられるようになってほしいと思っています。

ワークシート 6

エシカル消費とはどのような消費のことか、エシカル消費の取り組みが起きている理由について考えをまとめ、グループで話し合います。また、持続可能な開発目標（SDGs）について知ったうえで、持続可能な社会のために自分たちにできる消費行動を考えます。

◆ 池岡先生から一言 ◆

自分の持ち物について、なぜそれを選んだのかを生徒に聞くと、大抵が「安いから」「デザインがよいから」と答えます。そうではなくて、商品の選択にはほかにもいろいろな視点や選択肢があるということを理解してもらいたいと思います。それが、家庭分野で環境に配慮した消費、さらにエシカル消費、SDGsを学ぶ理由の一つだと考えています。

ワークシート 7

これまでの学習を踏まえて、成人したときに購入したいものについて、購入方法、支払方法を含めて改めて考えます。

◆ 池岡先生から一言 ◆

成人したときに購入したいものについて、ワークシート2やワークシート3を実践したときと比べて何が変わったかを考えてもらいます。そして、グループの仲間の意見を聞いて、どういう買い物が適切であったのかについても検討しても

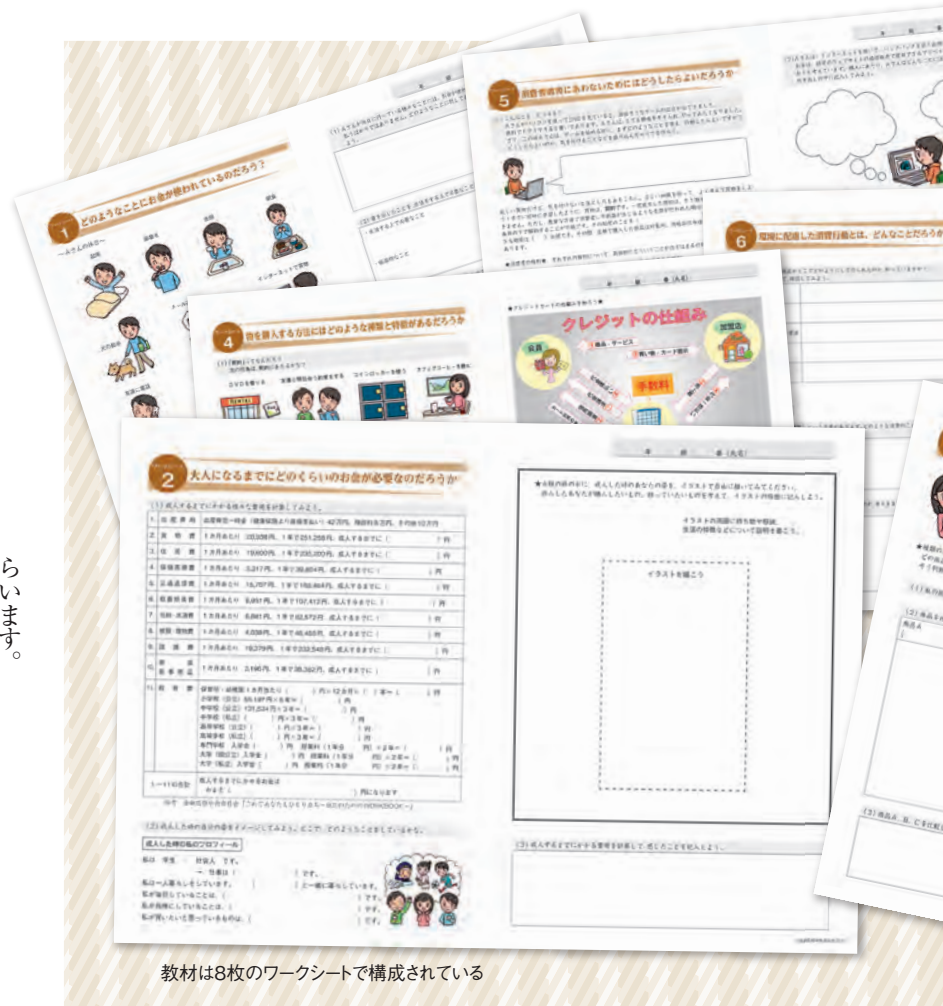
ワークシート 8

らいます。

アンケートに回答する形で消費者としての自分を振り返ります。さらに、8時間の学習の最終的な振り返りとして、消費者としての自分の課題を川柳で表現し、発表し合ってお互いの気付きを共有します。

◆ 池岡先生から一言 ◆

生徒が作った川柳をみると、五七五の音にまとめることでの確にポイントを捉えられるようです。鋭い一句が次々と生ま



教材は8枚のワークシートで構成されている

各学校の事情に応じてアレンジができる

れています。

この教材は、これまで池岡先生が授業で使用してきたワークシートに、新しい学習指導要領の内容や「学校における金融教育推進のための教材研究会」での検討結果を織り込む形で作成されました。池岡先生は授業での経験や反省を踏まえて、順番の入れ替えなどワークシートの見直しを毎年行っているそうです。この教材についても、現時点ではこれがベストだと考えていますが、今後、適宜見直しを行うことも想定しているといえます。池岡先生は、最後にこう締めくくります。「本校では、3年前から学習指導要領の改訂に備えて『新しい時代に必要な資質・能力の育成への試み』を主題とした研究を進めており、研究と現場双方の視点から実践を行なっています。こうした研究発表会を通じてわかったことは、生徒や学校、地域の実態を考慮するとまったく同じやり方で指導することはできないということ。この教材に関心を持ってくださった先生方には、このままの形ではなく、学校の事情などに応じて、適宜アレンジして活用いただければと思います」。

（注）「生活に必要な金銭の流れを理解し、消費行動を見直そう」「見えないお金が見えてくる！」は知るぽろとWEBサイトにワープロソフト形式などでも掲載しています。